委 員 会 会 議 録

（社）滋賀県トラック協会

会 議 名	平成２４年度（第１回）　　環境対策委員会
開催日時	平成２４年４月１６日（月）　１４：００～１６：１５
開催場所	滋賀県トラック総合会館　３Ｆ「研修室１」
出 席 者	委員９名、担当副会長、事務局３名

協　　議　　内　　容

定刻に開会。開会にあたり坂口委員長及び伊地智担当副会長から挨拶が行われた。
挨拶の後、早速、坂口委員長が議長となり議題協議に入った。

議題

（１）　事業実施状況について

資料に基づき事務局から説明が行われた。

各種助成金の執行状況

・低公害車助成以外は対予算で、２０％～６０％の執行状況であった。低公害車助成の執行率は９６％と、ほぼ予算通りの状況であった。

（２）　平成２４年度事業計画・予算（案）について

各種助成事業計画要領（案）

事務局より事業計画要領（案）が説明された。

（前回委員会より変更点のみ説明。）

・平成２４年度の予算は、前年度の交付金予算から１９７００千円削減されている。

・新規事業の環境に優しい経営促進助成、エコプロジェクト事業、トラックの日より組み替えられたトラックの日事業（植樹）以外は、前年度より予算を削減または前年度のままである。

・CNG 車・ハイブリッド車で国（国交省）の補助金は、新車導入のみの購入と経年車の廃車を伴う新車導入で助成金額が異なる。

・CNG 車・ハイブリッド車で国（国交省）の補助金を受けられる方は、補助金交付予定枠申請（９月１日～９月３０日）を行う必要がある。

・低公害車導入促進助成と同様に各種助成は、平成２５年３月分に対しても助成対象とする方向。

・エコドライブ研修を６回から４回に削減。約９０万の予算減。

・EMS・ドライブレコーダー用機器導入促進助成のドライブレコーダーの助成は安全対策委員会所轄となる。

・エコプロジェクトは当初の予算では８００万円だったが、株式会社アスアとの協議

結果６００万円になった。

（３） エコドライブ研修会について

・開式の挨拶等はクレフィール湖東にすべて任せることとする。

・エコドライブ研修は出来るだけ新規の事業者に受けてもらうべきとの結論に至り、定員を超える場合は新規の参加者を優先することとする。

・定員が集まらない場合、各委員の方に声かけを要請する。

（４） エコプロジェクトの取り組みについて

事務局から本事業の具体的な内容の説明が行われた。

・事業内容を説明するお知らせだけでは不十分なので、事業内容を深く知ってもらうため、６月の事業説明会までに協会で各支部の定例会、役員会で説明する。

次に本事業で事業者に発生する負担金（登録費、セミナー参加費、燃費データ作成費）を協会が負担するか否かについて協議された。

・参考として、東ト協は、最初の１～２年は事業者の費用を負担している。その後、東京都からの補助金もあり、現在は無料化していることが説明された。

① 事業者の負担金をゼロにする案

・先着順ということもあり、事業者間に不公平さがでるのではないかとの指摘。

（参加する企業は得をするため、ある程度の負担は必要）

・無料という事で事業者の意識が軽薄になる可能性。

② 燃費データ作成費（５００円×１２か月）のみを事業者の負担にする案

・負担金は、事業者の参加の足枷となるのではないかとの指摘。

・現時点で燃費ギリギリなのに、これ以上燃費が向上するのかという疑問。

結果、当委員会では結論には至らず、当委員会で出た意見を集約し、たたき台を作成し、次回委員会への継続審議となった。

（その他）事務局から運行記録計導入に関するアンケート結果についての説明が行われた。

当協会の会員５７１社に対して、運行記録計の導入状況に関するアンケートを実施したところ、回答数２３３件で回答率は４３％であった。

全車両中、運行記録計（アナタコとデジタコ）の導入率は８６％でその内、デジタコの方がアナタコより多く導入している。また、大型車におけるデジタコの導入率はアナタコを上回っている結果となった。保有車両３１両以上の事業者に限っては、運行記録計の導入率は９８％である。

５月２０日のエコドラコンテストの運営協力者が坂口委員長から武田委員へ変更となった。

以上で議事が終了。次回委員会開催日を決め、嶋本副委員長の閉会の挨拶の後、閉会。

■次回委員会

日　時　　平成２４年６月４日（月）　１４：００～

場　所　　滋賀県トラック総合会館